

【中学年ブロック】

日時 令和7年7月1日
学年・組 第4学年3組(36名)

『思いやりのデザイン』

『アップとルーズで伝える』

討議の柱

- 書くための手立て(メモ、チェックポイント、例文、ヒントカード)は有効であったか。
- 協働的な学びを本時に入れるとしたら、どの場面で、どのように取り入れられるか。

成果

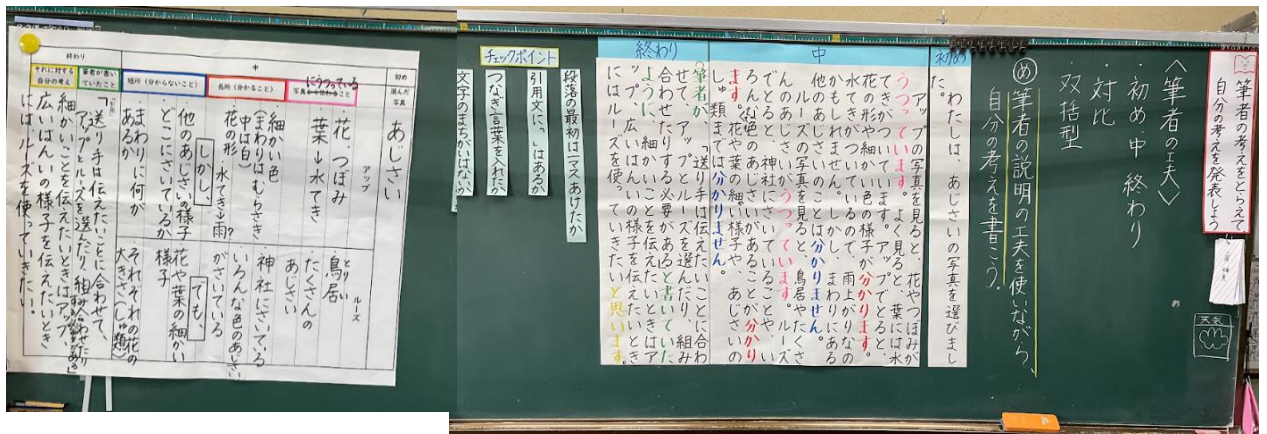
- 書くための手立てが良かった。(メモ、色分け、例文、チェックポイント、ヒントカード)
- 書けたという達成感を味わえた子どもが多く、自信につながった。
- 本時では協働的な学びではなく、「書く」ことにこだわり、たっぷり時間をかけたことが子どもたちの「書けた」という達成感につながった。
- 学習をしたことを活かして、文の組み立てを意識しながら書くことができた。

課題

- 「考え」と「思い」は違う。その違いを教師がしっかりとつかんで指導していく必要がある。
- 今回は子どもたちの書いた文章が、尾括型だったが、本文と同じように、双括型の文にしてもよかった。
→今回は「引用」をするということもあって、尾括型にした。双括型にするとしたら…
 - ・双括型の「初め」の文を統一し、「終わり」に自分の考え(思い)を書く。
 - ・問いかける形で「初め」を書き、対比しながら自分の考えを書く。
 - ・筆者の考えを書くか自分の考えを書くかで、双括型の中身が変わってしまう。
立場をはっきりさせないと書きにくくなる。

今後に向けて

- もし協働的な学びを入れるとしたら…
今回の本時だったら、「アップ」と「ルーズ」を分担して、二人で一つの文章を書くという方法もある。
新聞を書く活動など、一人で全部書ききることが難しい内容が出てきたときに、
分担しながら書くことで協働的な学びができる。得意、不得意、いろんな人が集まることで
出てくる考えや方法が出てくる。補い合って完成を目指すことも大事。



3年生「文様」「こまを楽しむ」授業について

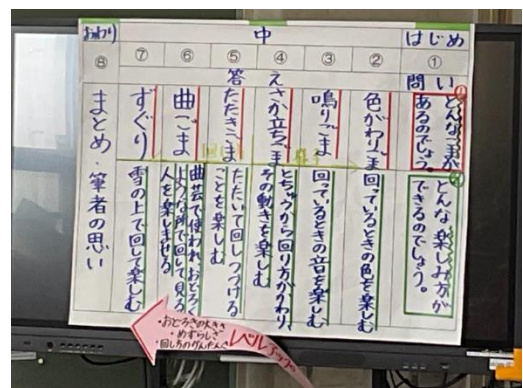
3年「文様」「こまを楽しむ」

成果

- 練習教材「文様」でも、「こまを楽しむ」と同様に紹介文を書く活動を入れた。そのことで、子どもたちは学習の見通しをもちやすくなった。書くために、書きたい内容をメモにまとめ、そのメモをもとに文章にしたい内容を話してアウトプットする活動を、書く前にもった。
- 子どもたちが文章を書くときに気を付けさせたいポイントを示した。そのポイントに着目させるために、教師の例文で間違ったものを提示し、子どもに気づかせる活動を入れた。子どもたちは、教師の間違いを一生懸命に探そうとし、積極的に関わった。
- 3年生の内容では、三つの段落に書くことが「選んだもの」「その特長」「選んだ理由」と、明確で分かりやすい。この三点に着目しやすくするため、教科書の本文に色分けをしたり、構成図に示したりした。また、説明文の全文を一枚にまとめて掲示したことで、説明文全体が捉えやすくなり、子どもたちの書くときの手立ての一つとなっていた。各段落を一文で表現し、一人で文章を書き上げるのできる子が多かった。
- 「理由」の部分に自分の思いを重ねて書くのできる子がいた。こういった表現のできる子の文章にふれてほしくて、子どもたちの書いた文章を書写の時間に清書し、教室に掲示して交流する場を取った。

課題

- メモと例文を見ても、文章にできない子がいる、「特長」と「理由」が同じ内容の繰り返しとなる子がいた。
- 書いた文章を推敲する場面では、今回3年生では個人でおこなうのみとした書いた文章を自分でチェックする(推敲)のポイントとして、3年生が自分で間違いに気づくことができる内容に絞った。「段落を変えたときには改行して一マス空ける」「文末表現を敬体にする」「文末には句点を打つ」の3つとしたが、それでも間違いに気づけない子が多かった。
- メモがあることで、文章としての形が整わないものになる子がいた。また、内容のまとまり(段落)が理解できていなかったり、段落の改行ができなかったりする子が一定数いた。接続詞の使い方や、主語と述語の対応ができないといった、文法的な理解ができていない子が、まだ多い現状である。子どもたちの文章でよくある間違いを提示して、みんなでどのように直していけば正しい表現になるのか考える時間をとる必要がある。正しい文章にふれる機会は大事に続けたいが、具体的にどこをどのように直すべきかを考える時間ももってあげたい。けれど、その時間の確保が難しい状況にあるのが、今の現状である。



校内研修 感想

○「アップとルーズ」の本文を基に、【自分が筆者になる】という取り組み、学習を初めてみました。とてもレベルの高い内容だなと感心しました。文章を書くことが好きな子が、生き生きと輝くことができる授業だなと思いました。苦手な子も、段取り、色分けなど書くための土壌が整っていたので、容易に取り組めるなあと思いました。

○私が授業を見て学んだことは、書きたくなる意欲を高めるための工夫をするためにしっかり教材と向き合うということです。それは今日の授業の中で、子どもたちがとても楽しそうに学んでいる雰囲気があったかくて子どもたちも素のまま授業に臨んでいました。また掲示や手立てが丁寧で細かく、とてもわかりやすかったので子どもたちも『書こう!』という気持ちになったと思います。

○授業前の楽しい雰囲気から一気に授業モードになる子どもたちの姿が印象的でした。本時までの積み重ねが分かるノートや、教室中にある学びのあとなど、日頃から丁寧な指導があってこそ今日の授業だと思いますので大変勉強になりました。山場までの確認の時間と、山場の時間のバランス、難しいです。